

# 第37回 全国高等学校野球選手権大会

昭和30年8月10日～17日  
甲子園球場

●優勝 四日市高校 ●準優勝 坂出商業高校

北海道代表・芦別高校	奥羽 代表・岩手高校	東北 代表・新庄北高	北関東代表・桐生高校
南関東代表・成田高校	神奈川代表・法政二高	東京 代表・日大三高	信越 代表・伊那北高
山陰 代表・静岡高校	愛知 代表・中京商高	三岐 代表・四日市高	北陸 代表・若狭高校
京津 代表・立命館高	紀和 代表・新宮高校	大阪 代表・浪華商高	兵庫 代表・神戸商高
東中国代表・玉島高校	西中国代表・岩国高校	南四国代表・城東高校	北四国代表・坂出商高
福岡 代表・小倉高校	東九州代表・津久見高	西九州代表・熊本高校	参加23校

第37回全国高等学校野球選手権大会・開会式は、「高校球児の聖地・甲子園」で行われた。8月10日・午前10時、高らかに鳴る「ファンファーレ」、8万の大観衆が見守る中、前年度優勝高・中京商業高校を先頭に入場行進が始まった。二番目は、今日第2試合で対戦する、神奈川県代表・法政二校が入場した。我が校は、紀和代表・新宮高校に続いて17番目に入場した。田中主将が奥羽大会優勝旗を握りしめての入場、後には村川・小泉・田口が三列に並んで堂々の入場である。郷土岩手から応援に馳せ参じた岩手高校応援団40人と関西在住の県人約200人が三塁側スタンドに陣取り「岩手ガンバレ」の声援を送った。開会当日・第1試合は、山陰代表・静岡高校 対 南四国代表・城東高校。第2試合は我が校 対 神奈川県代表・法政二高の試合である。

—【思い出】予行練習から試合まで—

開会式の前日、甲子園球場で入場式の予行練習が行われました。一年生の松館が体調を崩し予行練習に出られなかったが、同行の久保田医師がいたので安心して予行練習に出る事が出来ました。開会式当日、朝には元気に成っていました。8月10日、朝食・ミーティング。開会式・試合に必要な万全の用意をしました。西宮の「三福旅館」から甲子園に向かった。沢山の方が見送ってくれました。甲子園に到着、指定の場所には多くの選手が集合していました。不確かな記憶しか残っていませんが、近くに坂崎選手(春の選抜大会優勝・浪華商高4番・ツライツで活躍)がいたのは覚えています。入場が近づくにつれて緊張感が増していきました。この辺から記憶が定かでなく成っていきます。私の手に優勝旗、14人の選手が行進した。主催者の挨拶・優勝旗返還等の後、参加23校の主将がバックスクリーンに集合、国旗・大会旗を掲揚した。この感激は一生忘れる事は無いと思います。振り返れば、昭和29年・一関一高に敗れた後、主将に推薦された。何の様な心境だったか思い出せません。大会は継続中でしたが敗戦の翌日から来年に向けて練習が行われました。私の心の中には「北田輝さんが投げたら一関一高には負けなかった。奥羽大会にも出れた」と思っていたのは確かでした。この悔しさが厳しい練習に耐える事が出来た理由だったかもしれません。入場式が終わりアルプススタンドの通路から外に出た。私が平常心に戻ったのは暫く先だと思えます。試合に備えて近くの校庭(蹴か中野の校庭)で練習し事など二時間余りの空間は定かでは有りません。鍛冶川主審のプレーボールで試合が始まった。法政二高「トップバッター・吉沢選手を三振に打ち取った」この時点で平常心に戻ったと思えます。私の心の中には「相手と対等に試合が出来るのか」が常に心の中に有ったのです。

## 岩手高校・堂々第一戦を飾る 3-0 神奈川代表・法政二高に完勝

8月10日・盛大な開会式が行われた。第二試合、岩手高校 対 法政二高戦は、午後1時20分開始された。我が校は、法政二高（神奈川県代表）に対して悠然と立ち向かい堂々撃破し殊勲を打ち立てた。初回、法政を三者凡退に打ち取った事は、チームに「田舎チームでも甲子園で試合が出来る」と自信を持たせた。攻撃面でも地区大会と変わらぬ短打戦法で攻め立て初戦を飾る事が出来た。初回・三回・五回と小刻みな得点と村川の好投・バックの攻守も冴え法政二高の猛攻撃を見事に振り切って第一戦を飾った。甲子園の「ひのき舞台」での初戦突破は、昭和22年・福岡高校が谷村商業（岐阜）を一回戦で破って以来の事で八年振りの快挙であった。

● 1回戦 8/10 PM 1:30~3:24 (土) 鯉川

法政二高 (神奈川代表)	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0	(3B) 大泉 (法)
岩手高校 (岩手代表)	1 0 1	0 1 0	0 0 X	3A	(2B) 板垣、田中 (岩)
	(法政) 大泉	根岸	(岩手) 村川	一田中	

[法政二高]	打	得	安	点	振	四	犠	盗	失
⑥ 吉 沢	4	0	2	0	1	0	0	0	2
④ 坂 田	4	0	1	0	1	0	0	0	0
⑧ 熊 倉	3	0	0	0	1	0	0	0	0
8 飯 島	1	0	0	0	0	0	0	0	0
① 大 泉	4	0	1	0	0	0	0	0	1
⑨ 宮	4	0	0	0	1	0	0	0	0
③ 秋 沢	3	0	0	0	1	0	0	0	0
⑤ 二 宮	2	0	1	0	0	0	1	0	0
② 根 岸	2	0	0	0	0	1	0	0	0
⑦ 照 屋	3	0	0	0	0	0	0	0	0
計	30	0	5	0	5	1	1	0	3

[岩手高校]	打	得	安	点	振	四	犠	盗	失
⑤ 板 垣	3	2	2	0	1	1	0	0	2
③ 名久井	2	1	0	0	0	1	1	0	0
⑧ 田 口	3	0	0	0	2	0	1	0	0
② 田 中	3	0	2	2	0	0	1	0	0
⑥ 小 泉	2	0	0	1	0	1	1	1	0
⑨ 沢 野	4	0	0	0	2	0	0	0	0
⑦ 佐々木	4	0	1	0	1	0	0	0	0
① 村 川	2	0	0	0	1	1	0	0	0
④ 平 野	3	0	0	0	1	0	0	0	0
計	26	3	5	3	8	4	4	1	2

### チームワークの勝利

**[戦評]** 岩手高校は、法政二高の機先を制して勝った。一回、大泉投手の制球難から2四球とバント失、小泉の左犠飛で先取点を上げた。三回、板垣の安打・名久井のバントFc・田中安打・小泉の中犠飛で板垣生還と小刻みに加点した。五回にも板垣の左翼線二塁打、名久井・田口凡退の後、田中の左中間大飛球はワンバンドでスタンドに入る二塁打で板垣生還し計3点リードした。

法政二高は、村川投手の緩急と一球一球コースを変える巧みなピッチングに翻弄され前半チャンスらしいものは無かった。六回・連続安打のチャンスも沢野右翼手の美技で得点する事が出来なかった。

この試合、岩手高は真っ正面から取り組んで実力を出し切ったのに反し、法政二高は岩手を軽視したわけでないだろうが策を勞し自滅して持てる力を出し尽くせず敗れた。

#### [試合経過]

- ①法政・吉沢・三振、坂田・右飛、熊倉・投ゴロ。  
岩手・板垣・四球・二盗、名久井・四球、田口・バント大泉ハンプルして一塁に生きる。田中・左飛で板垣生還。沢野・小泉凡退。(得点・1)
- ②法政・大泉・二ゴロ、宮・投ゴロ、秋沢・三振。  
岩手・佐々木・捕飛、村川・三振、平野・三振。
- ③法政・二宮・二ゴロ、根岸・四球、照屋・二飛、吉沢・遊ゴロ。  
岩手・板垣・左前安打、名久井・バントFc、田口・バントで板垣三封、田中・一塁後方テキサスヒットで満塁、小泉・センターに大飛球・名久井生還、沢野・三振。(得点・1 計2)
- ④法政・坂田・投ゴロ、熊倉・三振、大泉・一二塁のゴロ・ライト沢野右に走り右中間を抜かれ三塁打、宮・三振。  
岩手・佐々木・左前安打、村川・遊ゴロ6-4-3の併殺、平野三ゴロ。

- ⑤法政・秋沢・中飛、二宮・左前安打、根岸・一ゴロ・二宮二進・三盗・田中捕手からの送球でアウト。  
**岩手**・板垣・三塁線を破る二塁打、名久井・右飛、田口・三振、田中・左中間の大飛球ワンバンドでスタンドに入るインタイトル二塁打・板垣生還、小泉・遊ゴロ失・田中三本間に挟まれる。(得点・1 計3)
- ⑥法政・照屋・三ゴロ失で出塁・二盗失敗、吉沢・中前安打、坂田・三遊間安打、熊倉・一飛、大泉・ライトに大飛球・ライト沢野背走し後ろ向きで好捕(スタンドから大拍手)。  
**岩手**・沢野・右飛、佐々木左飛、村川・四球、平野・三ゴロ。
- ⑦法政・宮・二飛、秋沢・三ゴロ失、二宮・三ゴロ5-3-5の併殺。  
**岩手**・板垣・三振、名久井・右飛、田口・三振。
- ⑧法政・根岸・三振、照屋・二ゴロ、吉沢・三塁線ゴロの内野安打、坂田・三振。  
**岩手**・(法政・右翼が飯島に代わる)田中・中飛、小泉・四球、沢野・三振、佐々木・三振。
- ⑨法政・飯島・遊ゴロ、大泉一ゴロ、宮遊ゴロ。

● **岩手県野球協会常務理事 長 沢 正 夫 氏**

勝利するとは思わなかったが善戦すると信じていた。選手同志のチームワークが唯一の強みで村川の絶妙な好投と上位打線の健闘が勝利の原動力だろう。関東から西のチームは先取点を奪われると精神的に動揺する事が多く、一回に1点取った時は「勝てる」と思った。今回の闘志を忘れずに二回戦も健闘してもらいたい。

● **岩手日報特派員 七 宮 氏**

試合前まで心配されていた岩手高校応援団は試合当日、鎌田耕一郎応援団長が盛岡から運んできた高さ三間の「岩手高校」と大書した大きな幟を高々と三塁側アルプスタンドに打ち立てたところ、たちまちその回りに関西に在住されている県人が集まって百人位の応援団が出来た。ラサ工業が準備していた「ウチワ・笛」を手渡し「ウチワ」を振ったり「笛」を鳴らしたりの大応援団。盛岡から来た先輩の佐々木市議会議員や栃内松四郎氏らが体全体を使って大応援。ネット裏記者団の予想は法政有利。法政のトップバッター・吉沢(法政主将・開会式で選手宣誓)を軽く三振に打ち取ると記者団も首をかしげ、岩手・一回裏1点を先取すると「おやおや」とゆう表情に、三回・五回と点を重ねると「岩手は強い、投手もうまいし良く打つ」と変わった。岩手の勝利に記者団も感嘆していた。六回表・法政唯一のチャンス、一死後・吉野・高田と連続安打、四番・大泉ライトに大飛球、ライト沢野が後走して後ろ向きのまま見事キャッチした。誠に素晴らしいプレーであった。

● **岩手高校校長室**

「万歳、万歳」午後3時24分、岩手高校が法政二高を破った。校長室で実況放送を聞き入っていた野球部後援会長・村井源三氏をはじめ・教員・合宿中のラグビー部員の間から起きる感激の一瞬「よくやったよくやった」全員躍り上がって万歳を叫ぶ。自宅で実況を聞いていた山中校長も勝利を確かめ学校に駆けつけた。ヒッキリなしにかかってくるお祝いの電話応答。「有り難う・早速祝電を打ちましたよ」と満面喜びをたたえていた。

● **岩手高校校長・山 中 順 三 氏**

“愉快です”よくやってくれました。あの様な大観衆に囲まれながら上がりもせず自己のペースを保ち終始学生らしいプレーを続けしてくれた事は日常生活に培われた団結力とゆとりある精神力によるものでしょう。

● **村川投手宅で、母・ウメ(48)さん**

父親の巖さんは、八日の夜行で甲子園に急行。自宅では母ウメさん・家族五人・近所の人達とラジオにしがみつくと「村川投手の力投・一球一打の攻防に一喜一憂している情景が見られた。勝利のサイレンが鳴り響き、期せずして「バンザイ」の声が起こった。「勝ってくれば良いと思っていた、こんなに立派に勝つとは思いませんでした。何とも言えぬ喜びで一杯です。次の試合も思いきり戦うよう祈っています」と感激しながらウメさんでした。

**私の思い出**

私達は、8月5日の夕方盛岡駅での想像を絶する壮行の中大阪に向けて出発しました。当時の座席は、現在の通勤列車と同じ堅い座席で4人向かい合わせでした。翌朝・上野駅に到着しました。その後、日本橋・三田商店で当校・理事長に表敬訪問。その後、東京駅に移動・東海道本線「特急つばめ」で大阪に向かいました。8月6日・午後5時に大阪に到着しました。正に24時間の長旅でした。たまたま、国会議員の山本猛議員(佐賀県選出衆議院議員)が同乗しており、戸嶋・栃内先生と一緒に挨拶に行き「元気に頑張ってください」と激励された。8月7日・午前10時半から30分の甲子園で初練習です。「サア行こう」の掛声で甲子園に飛び出した。高さ80尺・銀色の大屋根・七万人収容のスタンドを見て感激し驚嘆した。ランニングで外野フィールドを確かめ・シートノック・フリーバッティングで球場の雰囲気を感じ取った。グラウンドに阪神タイガースの白坂長栄(福岡高校福岡道プロ)選手が激励に現れ「体に気をつける・球場のクセ」等有益な話を聞かせてくれました。宿舎の三福旅館は、国電西宮駅のまん前、球場までバスで20分。旅館の方々は、選手の真面目な態度に感じし素晴らしい接待で有った。

# 岩手高・甲子園に無念の涙。 3-1 坂出商に敗れる。

2回戦 8/14 PM 0:30 ~

(注)

(塁審)

岩手高校 (奥羽 代表) 0 0 0 0 1 0 0 0 1 (岩) 村川-田中  
 坂出商業 (北四国代表) 0 1 0 0 0 2 0 0 X 3A (坂) 岡崎-中川

第五日目の八月14日の第二試合、二回戦・岩手高は坂出商業(北四国代表・徳島、香川県)と対戦し1対3Aで惜しくも敗れた。全く惜しい勝負であった。一回戦で法政二高(神奈川県代表・神奈川県)を降ろし二回戦に進んだ岩手高は、ベスト8を目前にしての対戦であったが甲子園の原頭から消え去った。最後の打者・田中の三振で試合終了。サイレン鳴り終わり岩手高ナイン、ダッグアウトを飛び出し最後の挨拶に向かった。真っ黒な土と汗が染み込んだユニホームが清々しく感じられた一瞬であった。

[岩手高校] 打安失振四犠盗残

①5板垣	4	0	0	1	0	0	0	0	0
②3名久井	4	0	0	0	0	0	0	0	0
③8田口	4	0	0	3	0	0	0	0	0
④2田中	4	0	1	2	0	0	0	0	0
⑤6小泉	3	1	1	0	0	0	0	1	0
⑥9沢野	3	1	0	0	0	0	0	0	1
⑦7佐々木	3	1	0	1	0	0	0	0	1
⑧1村川	2	1	1	1	0	1	0	1	1
⑨4平野	3	0	0	0	0	0	0	0	0
計	30	4	3	8	0	1	1	3	

[坂出商業] 打安失振四犠盗残

①5山地	4	0	0	0	0	0	0	0	0
②8山田	4	2	0	0	0	0	0	0	0
③4黒田	4	0	0	0	0	0	0	0	1
④7山科	2	1	0	0	2	0	1	1	
⑤2中川	3	0	0	0	0	1	0	0	
⑥1岡崎	2	1	0	0	2	0	0	2	
⑦3水本	3	1	0	0	1	0	0	2	
⑧9大東	4	1	0	2	0	0	0	1	
⑨6大喜多	2	0	0	0	1	0	0	1	
計	28	6	0	2	6	1	1	8	

岩手 2 1 (村川)  
 併 ボーク  
 法政 0 0

## [試合経過]

- ①岩手高校 板垣・三振、名久井・遊ゴロ、田口・三振。  
 坂出商業 山地・一飛、山田・三ゴロ、黒田・三ゴロ。
- ②岩手高校 田中・三振、小泉・二飛、沢野(第一戦の殊勲者)・センター前安打、佐々木・外角ストレールを見逃して三振。  
 坂出商業 山科・四球、中川・一塁線にバント田中捕手から一塁送球して刺す・山科二進、岡崎・中堅右に安打・山科生還1点先取、水本(村川少し動揺す)・四球で一死二塁、大東・左飛、大喜多・四球で二死満塁、次打者山地・三ボールに成り岩手ピンチ(ショート小泉プレートに駆け寄り村川の肩をたたいて励ます 村川うなずいて2-3に追い込み左飛に討取る。(岩手ナイン・ホットしてベンチに還る、控えの選手グローブ等を受取り笑顔で迎える)
- ③岩手高校 村川・三振、平野・遊ゴロ、板垣・左飛。(坂出商・岡崎投手のサイドから投げ込むシュートとスライダーは岩手の各打者を幻惑する)  
 坂出商業 山田・三遊間をゴロで抜く安打。黒田・遊ゴロで山田二封、一塁に転送されたが黒田危うくセーフ、山科・二塁に強烈なゴロ4-6-3と転送され見事な併殺。
- ④岩手高校 名久井・右飛、田口・見送り三振、田中・バットの真で捕らえた打球はライナーで右翼真正面。  
 坂出商業 中川・遊ゴロ、岡崎・カウント2-3から選んで四球(村川外野に「いくぞ」と両手を上げて声をかける)、水本・三ゴロで5-4-3の併殺。
- ⑤岩手高校 小泉・一球目から強打レフト前ヒット・二球目スチール敬行、沢野・三ゴロで小泉三進、佐々木・投前にスクイズしたがサイン不徹底で小泉ホームにつけず、佐々木一塁アウト。  
 坂出商業 村川・二球目の好球をたたいてショート右を抜くクリーンヒット・小泉打球を見ながらゆうゆうホームを踏んで同点、平野・三ゴロ。  
 大東・空振り三振、大喜多・中飛、山地・ライナー左飛。
- ⑥岩手高校 板垣・三球目打ったが殺ゴロ(バット折れる)、名久井・二ゴロ、田口・緩いボールを打ち捕飛。  
 坂出商業 山田・ファールでねばって遊ゴロ、黒田・遊ゴロ、山科・左前テキサス安打で出塁、中川・(一球目レフト左に大飛球のファール)・その後逆進にゴロ・小泉これをダブル・山科その間ホームに向かう、一塁カバーの田中捕手はホームベースにかえり小泉からの辺球を捕球し、主審アウトのコール有り、しかし山科の勢いに押されて落球危うくセーフ・二点目を献上、岡崎・右足に死球、水本・左前安打で中川三塁から還ってまた1点。大東・三遊間安打で二死満塁、大喜多・二ゴロ。
- ⑦岩手高校 田中・高い捕飛、小泉・三ゴロ、沢野・遊ゴロ。  
 坂出商業 山地・三ゴロ、山田・また三遊間を破る安打(村川投手・小沢注審からボークを宣告される)山田二進、黒田・投ゴロで山田2-3間に挟まれたが村川悪投し二進、山科・四球で一死満塁、中川・スクイズ失敗で山田三塁間に挟まれ立ち往生し田中捕手三塁ベース近くでタッチする。その間走者は二塁に進塁、その後二飛で無得点に押された。
- ⑧岩手高校 佐々木・三塁強襲安打、村川・平野板垣  
 坂出商業 岡崎・投ゴロ、水本・右飛、大東・空振り三振。
- ⑨岩手高校 「岩手高・スタンド(一塁側)総立ちとなって最後の攻撃岩手高ナインを励ます」  
 名久井・左飛、田口・外角高めのボールを空振りして三振、田中・スライダーを空振りして三振(田中談・川村監督からホームランを狙えと指示を受ける)。  
 午後2時25分スタンドの拍手を浴びながら応援団に向かって「有り難う御座いました」と頭を下げた。スタンドから「よくやった、よくやった」と応援の方々から激賞の声が起こった。

## “魔の六回” 不運の落球

岩手高、五回表・村川の適時打で1対1の同点に持ち込んだ。《魔の六回》坂出商、六回裏二死後、四番山科・左前テキサス安打で一塁に生きる・二盗、五番中川・遊ゴロ・遊撃手小泉ハンプル・山科は一挙に本塁をついた。捕手田中は一塁カバーに向かっていたが急遽ホームに引き返す、山科足から猛烈なスライディング、小泉からの送球を田中受けタッチ・主審「アウト」のコール、山科の勢いに押されて田中・転倒・その時田中のミットからボールがポロリと転がり落ちて山科は生還した。この一点すらなかったならば…あきらめきれぬ岩手の不運だった。敗因について川村監督は『村川にボールが多かった事、坂出商・岡崎のカーブ・スライダーに主力の板垣、田中が打てなかった事』をあげている。村川は『今日は体が重く、ボールが決まらない感じだった』と残念そうに語っていた。岩手高はよく戦った、四国の雄・坂出商高と堂々四つに組んで一步もゆづらぬ戦いぶりは称賛に値する。甲子園ファンにも『奥羽地区に岩手高あり』とはっきり印象づけた一戦であり、退場の岩手高各ナインに『来年また出てこいよ』と激励の声がかけられた。

### 【戦評】

試合運びにまさった坂出商は岩手高のわずかな乱れに乗り、得点して勝利を握った。坂出商は二回四球の山科を手堅くバントで送った後、岡崎の中前適時打で先取点を挙げ、六回は二死後山科の安打、中川の遊ゴロで演じた岩手高・遊撃手小泉と捕手田中のダブル・エラーで再びリードを奪った後、死球と二本の安打でさらに1点を追加した。岩手高・村川は前半ボールが浮いて制球に苦しみ、二回先取点を許したが、五回安打に出た小泉を三塁において自ら中前安打を放ち同点にしたところから立ち直りつつあった。しかし六回に演じた失策が致命傷となって、惜しくも敗戦に甘んじた。

## 我らかく戦えり

### ◎戸嶋部長の談話

選手達は本当に良く健闘したと感謝しています。今のチームは非常に団結心が強く、臆せず悪びれずいいチームカラーを残してくれました、今後もこれを育てさらに実力を養いたいと思います。

### ◎川村監督の談話

ピンチにも動ぜず、チームワークが良いのが私のチームでした。今日は失策で試合に敗れましたが何か精神的に落ち着かぬものがあったようです。この点で監督として責任を感じています。

### ◎主将、捕手・田中義男(3年)

私は高校生の最後の年に生涯の望みであった甲子園出場とゆう感激の舞台に出られた事を喜んでいる。また私は甲子園大会出場に当たり「強敵だといって恐れず、弱敵だといって侮らず」高校生として恥じない戦いをしたつもりです。

### ◎投手・村川吉兵衛(2年)

甲子園の夢が高校二年にして実現した。これは生涯の思い出として深く心の中に刻み込まれる事であろう。夢にまで見た甲子園が私の目前に豪華絢爛にそびえ立った時喜びで一杯だった。第一戦を勝利で飾った時、郷土の皆様から心のこもった祝電を受け、第二戦でも絶大の声援を下された事に深謝しております。

### ◎一塁手・名久井光文(2年)

人は常に高いものを求めている。それを今日成しえた。夢の甲子園、遠い甲子園、多くの有名な選手を送り出した球場でボールを追う事ができた。感激と興奮は「甲子園で咲いた」幸せで一杯です。郷土の声援と母校の名誉を担い初出場で第一戦の勝利をものにした。僕は幸福とゆう名の上に立っている。

### ◎二塁手・平野喜三(3年)

夢に見た甲子園大会に出場できた事は、生涯胸の奥深く刻み込まれるだろう。甲子園では奥羽代表として恥じない様にプレー出来たし、石桜精神の真髓を十分に発揮出来たと思う。

### ◎三塁手・板垣隆夫(3年)

夢にまで見た甲子園、法政二高戦の予想は岩手高不利と見ていた。八万の大観衆、我がナインは一丸と成り捨てて身の戦法で戦った。「当たって砕ける」法政二高を圧倒し勝利を得る事が出来た。この感激は到底言葉に表す事は出来ない。今日の第二戦・坂出商業との戦いも全力を尽くして戦った。

### ◎遊撃手・小泉 勉(3年)

「甲子園出場」この感激と名誉は、私にとって最高の事です。郷土の皆様からの声援に心から感謝しています。初戦の法政二高を降ろした喜び、今後もこの感激を忘れずに「ガンバル」つもりです。

### ◎左翼手・佐々木英雄(2年)

夢の甲子園に出場でき、しかも初戦に勝つ事が出来た。この感激は到底言葉に表す事が出来ない。ただ胸が一杯だ。苦勞して夢が実現したことは自信につながった。大きな収穫だと思う。

### ◎中堅手・田口節雄(3年)

初戦に勝つことが出来たことは非常に嬉しい。全ナインが八万の大観衆に惑わされる事なく実力を出す事が出来たからだと思う。二回戦も全力を尽くして戦うつもりです。

◎右翼手・沢野重安(2年)

夢にまで見た甲子園が電車の窓を通して見えた時、私は言い知れぬ喜びを感じた。球場に一步踏み入れた時の異様な感じ、少し上がっていた方が調子が良くなる私には好都合と思った。この異様な雰囲気から早く平常心に戻った方が勝負に勝つと感じた。宿舎には沢山の祝電が来ていた、私は郷土の皆さんに心から感謝せずにいられなかった。第二戦も一生懸命頑張る。